

# 井の中の私、大海を見た。

佐野 晴香

クラーク記念国際高等学校

先日、私は押しイラストレーターの個展を見に行くために、電車で一時間ほどかけてあべのハルカスへ行っただ。その道中で驚くべき景色を見た。あべのハルカス内にある、壁一面がガラス張りになっているエレベーター内の、ガラス越しに見える大阪のビル街に驚いたのだ。広い。

美しいわけでも、何かの形に見えたわけでもなく、ただ広いのである。感動した。世界とはこんなにも広がったのだ。世界は広い、ということは、なんとなくだが分かっているつもりだった。地理の授業で散々、「私たちが住んでいる世界はとても広い」と教えられてきたからだ。だが、あまり実感は湧いていなかった。Google Earth や世界地図、地理の教科書などの画像では見たことがあっても、実際に世界の広さを実感する機会など、ここ数年のコロナ情勢のこともあってか、そのような機会がなかったからである。だからなのか、私にとっての世界は教室だった。あそこで失敗する。という事は、人生すべての失敗。と思い込み、毎日、毎日泣きながら生きていた。世界が広いということを実感してみると、今まで私が見てきた世界がいかに小さいかが分かった。私が見てきたあんなちっぽけな世界が、世界のすべてだと考えていたと思うと、私はまさしく、『井の中の蛙大海を知らず』だったのだ。そんなことを考えていると、エレベーターが目的の階に着いた。その後はもちろん個展を楽しんだのだが、帰りの電車内で行きのエレベーター内で見た広い景色を思い出し、ある一つの可能性について考え始めていた。カウンセラーの先生や母、保健室の先生がよく言っていた。

「世界は広いのだから、色んな人がいる。だから、見方を変えて見てみたらどう？」というのは、もしかしたら考え方以外にも物理的に見方を変えてみるという事だったのかもしれない。私は普段、およそ155cm 斜め下45度から世界を見ているのだが、超高層ビルのおよそ8階から14階にかけてのエレベーター内斜め下45度から見た景色は感動するほど違って見えた。高さが違うと感動するほど違って見えたのだから、角度を変えてみると違って見えるのだろうか。と、疑問に思い、電車を降りてまっすぐ前を見て歩いてみた。

全然違う。

もちろん見ている場所が違うということもあるのだろうが、なぜかいつも見ている景色より、広く、明るく、軽く感じた。

その翌日、近所を散歩してみた。もちろんまっすぐ前を向いて。たまに、さらに数度上を向いてみると、普段よりも見える世界が広がって見えた。あらためて世界の広さを実感すると、気持ちが明るく、軽くなっていった。しばらく数度上を歩いてみると、この曲を思い出した。坂本九さんの『上を向いて歩こう』だ。あれは歌詞の通り、涙を地面にこぼさないように上を向こう。だと思っていたのだが、もしかすると、涙をこぼすほどのことがあったなら、普段見ている世界への見方を変えてみよう。という意味も含まれていたのではないだろうか。私は散歩から家に帰るまでずっと、こうかもしれない、ああかもしれないと考えていた。

「世界は広いのだから、色んな人がいる。見方を変えて見て見たらどう？」や『上を向いて歩こう』も実際には、そういうつもりで言ったのではないだろう。

だが、考え方はもちろん、物理的にも見方を変えることで世界は変わる。このことに気づいてからは、井戸の中が明るくなったように感じた。

出典

坂本九『上を向いて歩こう』